



# ひきよせ

03 hikiyose  
2024-2025

TAKE  
FREE

日置の魅力を  
私たち中学生がお届けします  
あなたも見えない糸で  
引き寄せられるかも!?



地域資源 × 人 × 中学生  
でつくる新しい日置  
日置はまだまだおもしろい!!



## ひきよせ2号を読んでくださった方々から いただいた感想の一部を紹介します！

日置の魅力が一度にわかる内容でした。地域の学生が自分の住んでいる地域の歴史や文化を学び、それを発信するという地域の魅力再発見に熱心に取り組んでおられるということが伝わりました。



何気なく手に取り、家に帰ってじっくりと拝読しました。町の魅力や歴史がよくまとまっているなど感じました。全国から訪れる人にも日置のいいところを知ってもらえると思います。



日置の事を上手に紹介していて、他のフリーペーパーよりもずっと面白かったです。中学生が作ったとは思えない内容でした。充実していて、読んでいて楽しかったです。これを読んだ人達はきっと日置に引き寄せられて、日置に足を運んでくれると思います。



何十年か前の卒業生です。今は遠く離れて生活しています。自分達が子供の頃に何となく当たり前にあった行事や風景をこの様に紹介してくれて、思わず読み入ってしまいました。私達が子供の頃はもっと日置は活気があつて賑やかでした。日置の良さなんて何も考えずに中学時代を過ごしていたなと思います。しかし、皆さんはこの日置の素晴らしさをどうすればもっと発信できるのかと考え、行動して形に残しています。本当に嬉しいし、故郷って素晴らしいと思いました。楽しみながら今後も頑張って下さい。遠くからですが応援しています。



「ひきよせ」を手に取っていただきありがとうございました。日置中学校では日置の魅力や名所を伝えるフリーマガジン制作に取り組んでいます。フリーマガジン設置にご協力いただけるお店や施設等がありましたら学校までご連絡いただけますと幸いです。今後も取組の継続ができるよう頑張っていきますので応援よろしくお願ひします！



ひきよせ  
03 hiki-yose

発行  
住所  
和歌山県西牟婁郡白浜町日置979-2  
電話  
0739-52-2070  
[@hikiyu2019](https://www.instagram.com/hikiyu2019)



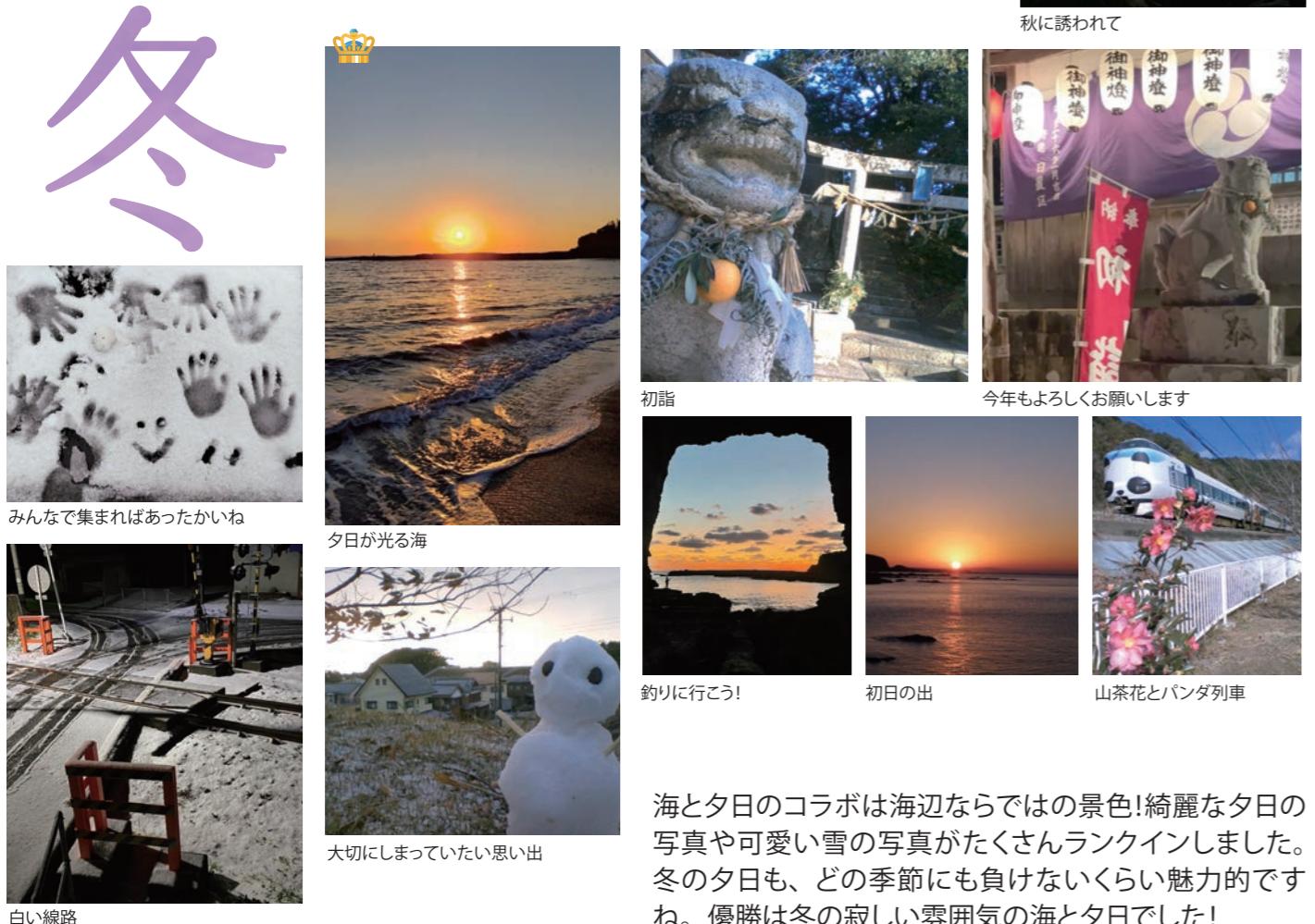
2025.10.2000\_01

# 写真コンテスト photo contest

季節に合った写真を撮って、写真コンテストを行いました。  
秋、冬バージョンの結果を紹介したいと思います。



秋は夕日がたくさんランクインしました。日置で見られる夕日はやはり綺麗ですね。ぜひ天気が良い日に一度訪れてほしいなと思います。優勝は日置ならではの夕日と、かわいいワンちゃんでした!



海と夕日のコラボは海辺ならではの景色!綺麗な夕日の写真や可愛い雪の写真がたくさんランクインしました。冬の夕日も、どの季節にも負けないくらい魅力的ですね。優勝は冬の寂しい雰囲気の海と夕日でした!



さあ、この冊子を手にとったあなたも。日置にひきよせられる準備はいいですか。

今回のフリーマガジン三号では、前回までと同様に、自分達の紹介したい「ヒト・モノ・コト」に焦点を当てた日置の魅力を紹介するとともに、これまでの活動や現在取り組んでいる活動の一部を記事にしました。続編を読んで、もっともっと日置の魅力に引き込まれていただくとともに、日置中学校の魅力も知つていただけると嬉しいです。

## CONTENTS

- 03 写真コンテスト！後編  
日置の秋、冬を感じてみてください
- 04 繋いでいく伝統の舞  
安宅獅子舞 @安宅
- 06 石をこよなく愛し、生命を吹き込む石工職人  
壺田石材店 @日置
- 08 野菜を作る、未来を創る つないでいきたい、この想い  
農家大内さん @日置
- 10 あたたかみ感じる第二のふるさとに  
廣本さん @日置
- 12 テニスで広がる地域との繋がり 日置が誇るテニスの聖地  
白浜町テニスコート @日置
- 14 愛され続けて75年 三代続く老舗の味  
たつのや @日置
- 16 日置中学校総合授業のあゆみ  
先輩方から引き継いだ歴史をまとめました
- 18 日置の海、地球を守りたい！  
海の森プロジェクトって何？
- 19 在校生の感想 etc...
- 20 読者の方からの感想、編集後記



## 繋いでいく 伝統の舞

@安宅



西暦五九一年、百濟(古代の朝鮮半島)にあった国家から日本に獅子舞が伝わってきました。「魔よけ」「延命息災」等の祈とう神樂として、山伏(やまぶし)、神子(みこ)などが踊っています。旧日置川町には百年前に伊勢から伝わってきました。

獅子舞は、秋祭りの中心となる行事で、①村人みんなが元気でいられること、②お米や野菜など作物がよく穫れること、③災害がやつてこないよう守つてくれる」とを祈願します。

安宅地区では現在も、十月の中旬に行われる安宅のお祭りで獅子舞が披露されています。お祭りの中心は安宅八幡神社。

獅子舞には、「弊の舞(へいのみ)」「剣の舞(つるぎのみ)」「乱獅子(だんし)」の三種類があり、安宅獅子舞は乱獅子です。

乱獅子のあらすじを簡単に紹介します。獅子が狂ったように乱れ舞をして疲れているところ、見ていたお多福が現れます。獅子を寝かせた後、お多福が一人で踊っていると、遠くで天狗が見ているのに気づきます。お多福が天狗を呼んで、「人で踊っているうちに仲良くなつていきます。そして獅子を起こしたり、ちよかいで出したりしてると、獅子が怒り出します。二人を追いかけます。お多福、天狗は逃げ回りますが、ついには食べられてしまします。その後、獅子は乱れ舞をして終わります」という話です。

今回、現在の青年会の宮山司(みややまつかさ)さん、尾崎慶治郎(おざきけいじろう)さんに、取材にご協力いただきました。

宮山さんは、小学五年生の時、子ども獅子舞で獅子舞を始め、その後、高校二年生の時に青年会に入つて獅子舞を踊りました。それは今も続いており、十九年間獅子舞を踊り続けてきました。宮山さんが獅子舞を始めたきっかけは「獅子舞のかっこいいところに惹かれたから」だそうです。宮山さんのやりがいは、見に来ていただいた方に笑顔になつてもらうこと、披露した後に「良かったよ。」と声をかけてもらうことだと教えてくれました。獅子舞をしている中で、大変なことは何か尋ねてみると、「ない。楽しくやっているよ。」と笑顔で答えてくれましたが、若い人が減り、見に来てくれる人も獅子舞を継ぐ人も少なくなっていることが悲しいと感じているそうです。

若い人たちが少ない中、宮山さんと尾崎さんは獅子舞について子供たちに興味をもつてもらうことや、来てくられた人に楽しさを与えることに力を入れたいそうです。こども獅子舞もその一つであり、いろいろな所で披露することで、人の繋がりをつくる大事なものとして大切にしていきたいという想いを話してくれました。

若いうちから獅子舞に興味をもつてもらうことや、来てくられた人に楽しさを与えることに力を入れたいそうです。こども獅子舞もその一つであり、いろいろな所で披露することで、人の繋がりをつくる大事なものとして大切にしていきたいという想いを話してくれました。

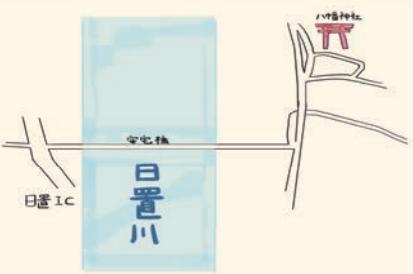
反対に、日置の良いところや魅力は、「自然が豊かで住みやすいところ。そして優しい住民たちがいることです。」だと話してくれました。日置には課題も多く



練習風景



昭和59年安宅青年会 集合写真



日置川ICを左折し、日置川をわたってすぐにある安宅八幡神社。ここを中心に秋祭りが開催されています。みなさんもぜひ一度遊びに来てください。



2015年日置川農林業祭りでの  
安宅こども獅子舞の様子

あります。日置だけではありませんが、人口の減少は大きな課題となつています。しかし、日置の良さを後世に残すため頑張っている人がいる、ということを分に自分の頭をはめた時、中の木の部分を噛まなければいけないので、歯に負担がかかり、折れそうになることがあります。ですが、今の獅子舞は昔に比べて重さや形が変わり、軽くなっていますので、昔は今よりももっと大変だったんだろうなと思いました。

また、宮山さんは「責任を持つこと」、「問題が起つた時はメンバーと一緒に解決していくこと」に気を付けています。そのような中、獅子舞を地域で披露して回つた後、青年会のみんなで一緒に夕食を囲んで楽しい時間を過ごしていました。やりがいや達成感を感じ、楽しみの一つになっているそうです。宮山さんの話を聞いていると、時にはぶつかり合いながらも、楽しく獅子舞ができる仲間を大切にしていることがとても伝わり、そのようなリーダーがいるからこそ安宅青年会の披露する獅子舞は魅力にあふれているんだなと思いました。

続いて、今の日置について、そして今後どうしていきたいかについて尋ねてみました。「昔に比べて仕事場が減り、人口も少なくなつてきて、発展させるのは厳しい。」という回答が返つてきました。だからこそ、地域をなんとかしたいといふ想いを持ち、子ども獅子舞を老人ホームなどで披露しているそうです。

反対に、日置の良いところや魅力は、「自然が豊かで住みやすいところ。そして優しい住民たちがいることです。」だと話してくれました。日置には課題も多く

あります。日置だけではありませんが、人口の減少は大きな課題となつています。しかし、日置の良さを後世に残すため頑張っている人がいる、ということを分に自分の頭をはめた時、中の木の部分を噛まなければいけないので、歯に負担がかかり、折れそうになることがあります。ですが、今の獅子舞は昔に比べて重さや形が変わり、軽くなっていますので、昔は今よりもっと大変だったんだろうなと思いました。

また、宮山さんは「責任を持つこと」、「問題が起つた時はメンバーと一緒に解決していくこと」に気を付けています。そのような中、獅子舞を地域で披露して回つた後、青年会のみんなで一緒に夕食を囲んで楽しい時間を過ごしていました。やりがいや達成感を感じ、楽しみの一つになっているそうです。宮山さんの話を聞いていると、時にはぶつかり合いながらも、楽しく獅子舞ができる仲間を大切にしていることがとても伝わり、そのようなリーダーがいるからこそ安宅青年会の披露する獅子舞は魅力にあふれているんだなと思いました。

続いて、今の日置について、そして今後どうしていきたいかについて尋ねてみました。「昔に比べて仕事場が減り、人口も少なくなつてきて、発展させるのは厳しい。」という回答が返つてきました。だからこそ、地域をなんとかしたいといふ想いを持ち、子ども獅子舞を老人

ホームなどで披露しているそうです。

反対に、日置の良いところや魅力は、「自然が豊かで住みやすいところ。そして優しい住民たちがいることです。」だと話してくれました。日置には課題も多く

## 石をこよなく愛し、生命を吹き込む石工職人



白浜町役場日置川事務所から徒歩一分の場所にある壺田石材店。今から約百年前(昭和五年)に創業し、とても長い歴史があります。取材中には壺田さんの石に対する熱い想いが伝わってきました。

現在三代目の壺田健司(つぼたけんじ)さん。今は一人でお店を経営してお

り、たくさんの業務を一人でできるよう様々な機械を揃えられています。

壺田さんが石に触れ合うきっかけになつたのは生まれた環境にあり、小さい頃から石に囲まれ育つたそうです。石に対するこだわりが強くなり、今では石を使つた多くの種類の作品や商品を作らせていました。取材でお店を訪れた際、店内や店外に完成度の高い作品がたくさんあり、迫力を感じました。

今回、取材を通して、印象に残つたお話をたくさんあつたので、紹介したいと思います。

まず始めに、仕事でミスをした事はありますかという質問に壺田さんは「作品を作る中では失敗は付きものだけれど、失敗は悪いことではない。むしろ次の作品の土台となる。」と話してくださいました。やりがいを感じる瞬間は、墓石を購入された方からの感謝の言葉で、その言葉を聞くと、「また頑張ろう、と自分が元気にやっていけるきっかけになる。」とおっしゃっていました。また、大変な瞬間は商品を作る時だそうですが、壺田さんは、ある想いを込めて商品

稿を続け、日置地区に闘わらずたくさんの人々に壺田石材店を知つてもらうために頑張る」と意気込んでいました。

日置で叶えたい夢は何かと尋ねたところ、「六十歳には、インフルエンサーになれたらいい。」と笑顔で話してくださいました。私たちも応援したいと思ひます。

また、お店を運営するにあたつての目標は、「創業百年に向けて頑張つていく」ことだそうです。創業百年まで、残り約五年、とあと二歩のところまで来ているので頑張つてほしいです。

空いた時間は石の勉強会、展示会に参加されており、作品の精度を上げるために努力をする、その心を忘れない壺田さんが手がける作品や商品はどれも素晴らしい出来栄えで、その想いが伝わってきます。

そんな壺田さん、石材店を営む以外に、とある理由で、私たちの町には欠か



見守りボランティア中の壺田さん

いない存在でもあります。今回はそのことにについても少しだけ紹介させていただきたいと思います。

一つ目は、毎朝の登校見守りボランティアです。夏の暑い日も冬の寒い日も、雨の日でも、壺田さんは小学校前の横断歩道に立ち、私たちの登校を見守つてくださっています。

見守りボランティアは十年以上も前から行つていると聞きました。この活動を始めるようになったきっかけは、「家族が交通事故にあつたことから、もう一度とそんなことがないようにするために」だそうです。私たちが小学校に通い始めた頃には、当たり前のように毎朝そこに立つてくださつており、挨拶を交わしていました。

今まで当たり前だと思っていましたが、今回このお話を聞き、当たり前では

を作られています。それは「①やると決めたことは必ずやり遂げる、②この仕事を与えてもらつたからには、途中でやめられない。」という想いです。このお話からも、壺田さんは強い使命感を持つておられ、様々な場面でも努力を惜しまない方なのだろうと感じ、見習いたいなと思いました。

壺田さんは店舗を経営する傍ら、個人でインスタグラムアカウントを開設しており、事業の様子や作品の紹介など、様々な情報を見日々発信されています。インスタグラムを始めたきっかけは、インターネットを通じて、日置に住んでいるいないに閑わらず、多くの人に投稿を見ています。取材でお店を訪れた際、店内や店外に完成度の高い作品がたくさんあり、迫力を感じました。

現在三代目の壺田健司(つぼたけんじ)さん。今は一人でお店を経営しており、たくさんの業務を一人でできるよう様々な機械を揃えられています。

壺田さんが石に触れるきっかけになつたのは生まれた環境にあり、小さい頃から石に囲まれ育つたそうです。石に対するこだわりが強くなり、今では石を使つた多くの種類の作品や商品を作らせていました。取材でお店を訪れた際、店内や店外に完成度の高い作品がたくさんあり、迫力を感じました。

今回、取材を通して、印象に残つたお話をたくさんあつたので、紹介したいと思います。

まず始めに、仕事でミスをした事はありますかという質問に壺田さんは「作品を作る中では失敗は付きものだけれど、失敗は悪いことではない。むしろ次の作品の土台となる。」と話してくださいました。やりがいを感じる瞬間は、墓石を購入された方からの感謝の言葉で、その言葉を聞くと、「また頑張ろう、と自分が元気にやっていけるきっかけになる。」とおっしゃっていました。また、大変な瞬間は商品を作る時だそうですが、壺田さんは、ある想いを込めて商品



壺田健司さん

なくすごいことだと思うと同時に、感謝したいなと思いました。長い間続けてくださつてるので、時には立つことができない日もあったそうです。しかし、「近所の方々が、何かあつたのかと心配してくれるからもうやめられなくなつた。」と笑いながら話してくださいましたが、そこには壺田さんの優しさがあふれているのだと思います。私たちが毎日事故なく登校できているのは、壺田さんがいてくれるからです。

二つ目は、日置中学校のグラウンド整備のボランティアです。本校は、生徒の減少に伴い、部活動等でもグラウンドを使用する機会が減少しています。そのため、夏になるとグラウンドは草が大量に生えてしまい、とても困っています。生徒や先生で整備はしていますが、追いつかないほどです。そんな時、壺田さんが声をかけてくださり、綺麗に整備してくださいました。

壺田さんは「ボランティアをやってます、というアピールはしたくない。人の助けを当たり前にしたい。また、そういうことをさりげなくできる人であります。」と話されました。壺田さんの表情はとてもかつこよく、私たちもそういう大人になりたいなと思いました。

私たちの町には壺田さんだけではなく、ボランティアとして、学校や町のことを探してくださる方々がたくさんいます。私たちも中学生として、町の人たちを支えられるような活動をしていきました。

壺田さんの願いと私たちの願いでもある日置の活性化。それぞれ違う仕事、活動ではありますが、日置に対する気持ちをSNSや、フリーマガジンを通して発信し、よりよい日置の町づくりがければ良いなど今回の取材で強く思いました。

壺田さんは「ボランティアをやってます、というアピールはしたくない。人の助けを当たり前にしたい。また、そういうことをさりげなくできる人であります。」と話されました。壺田さんの表情はとてもかつこよく、私たちもそういう大人になりたいなと思いました。

私たちの町には壺田さんだけではなく、ボランティアとして、学校や町のことを探してくださる方々がたくさんいます。私たちも中学生として、町の人たちを支えられるような活動をしていきました。

壺田さんは「ボランティアをやってます、というアピールはしたくない。人の助けを当たり前にしたい。また、そういうことをさりげなくできる人であります。」と話されました。壺田さんの表情はとてもかつこよく、私たちもそういう大人になりたいなと思いました。



Instagramもぜひチェックを!

[壺田石材店]  
日置980-77  
TEL 0739-52-2399  
FAX 0739-52-2372  
<https://ohakakiwame.jp/member/tsubota.html>  
営業時間 8:00~17:00

から手伝いをしているうちに、いつしかそれが将来の夢になった大内大作（おおうちだいさく）さんと美砂（みさ）さん

ご夫婦。宮大工になりたいという夢もあつたそうですが、農業を続けたのはやはり、農業の楽しさややりがいが大き

かつたからだと。農家になつたことについて、後悔は全くないそうです。農業

について語るとき、いつだって笑顔があ

ふれる大内さんにお話を伺いました。

正式に農業を始めて十三年目。初め

ての農業体験は芋掘り、初めて栽培し

た作物は米と大根。現在、栽培している

作物は、米、大根、ニンニク、玉ねぎ、キャベツ、ピーマン、春菊、ケール、バナナで

す。中でも大根は一般的に食べられる青

首大根、漬物等の加工品によく使われ

る白首大根、中が赤くて丸い紅芯（こうしん）大根の三種類を育てています。

また、ケールはサラダで食べられるよう品種改良したもの栽培しています。

季節が重ならないように栽培していま

るため、一年中仕事をされています。作物は毎日の手入れが重要なため、自分

自身が病気にならないように、毎日の健康管理にも気をつけているとのこと

です。

育てた作物は農協に出荷したり、給食に出してもらったり、直売所に持つて行つたりしています。

が多くのできてしまった時で、そのような

ことが起つた場合、引き取ってくれるところを探したり、加工品として販売したりして、作物となるべく無駄にしないように対応しているそうです。

一番忙しい季節は、「二年中」。作物を育てるのは簡単なことではなく、時間もかかります。「作物が育たないから、途中でやめることはできない」と、大変

さが伝わってきました。

日置の魅力について聞くと、やはり、「自然が豊かなところ」だそうです。自然が豊かなおかげで、作物に必要な水

収入が安定する、働けば働くほど返つてくるところ」だそうです。農業を始めたばかりの頃は収入が安定せず苦労もあつたそうですが、「二年中仕事をして、やつと安定してきた」と話されていました。大変な農業で食べていけるようになつたことや、生活ができるようになつたことが、農業での成功だそうです。

やりがいを感じる瞬間は、自分の育てた作物を食べてもらい、「美味しいかった」の一言が聞けた時。大内さんの作物を何度も購入してくださるリピーターの方も増えているそうです。私たちも給食で大内さんの野菜をいただきますが、本当においしく、特に「ジャンボピーマン」が私たちの間では話題になります。普通のピーマンとは違い、とても甘くて、ピーマン嫌いの人にもぜひ一度食べてみてほしいです。

反対に大変なことは、規格外の作物



増え、さらにファンが増えるといいなど記事を書きながら思っています。

農業を始めたばかりの頃の夢は「フレーリーを買うこと（笑）」だそうです。フレーリーを購入できたのかは聞けていませんが、夢を持つことの素敵さを感じました。そんな大内さんに中学生に向けてのメッセージをお願いしたところ、「一人でも多くの人に、農業に興味を持つてほしいです。また、何か夢になれることが、没頭できることを見つけるといい」と言ってくださいました。自分の子供には、「農業を継いでほしいわけではないが、本人が望むのならば一緒にしたい。」そうです。

これからも農業は私たちにかかることがあります。改めて気づきました。大内さん

の想いを聞いた私たちは、期待に応えられるように、ひきよせや海の森プロジェクトで日置を活性化させ、よりよい

未来を創るために頑張っていきます。

農業の大変さ、また、農業への熱い想

いを語つてくださった大内さんの愛情

たっぷりの野菜や米、花は、安居地区の

作業場、日置の道の駅「にこにこ市」、田

辺市の「よつてつ」「紀菜館」等で購入

することができます。この記事を読んで

大内さんの野菜を購入してくれる人が

左:大内美砂さん、右:大内大作さん

## 野菜を作る、未来を創る つないでいきたい、この想い

@日置



農業の技術は、農家の先輩に教わったり、ネットで検索したりして学ばれたそです。作物を育てるときの工夫は、過去の失敗を活かしたり、その年の気候に合わせて栽培方法を変更したりすること。また、味や品質の良い作物を育るために、固形の肥料だけではなく、液体肥料も使用しており、肥料にこだわっておられます。農業は少し手入れがかかるだけでも、作物の品質が変わってしまうため、繊細で大変です。

農業の魅力は、「頑張れば頑張るだけ収入が安定する、働けば働くほど返つてくるところ」だそうです。農業を始めたばかりの頃は収入が安定せず苦労もあつたそうですが、「二年中仕事をして、やつと安定してきた」と話されていました。大変な農業で食べていけるようになつたことや、生活ができるようになつたことが、農業での成功だそうです。

やりがいを感じる瞬間は、自分の育てた作物を食べてもらい、「美味しいかった」の一言が聞けた時。大内さんの作物を何度も購入してくださるリピーターの方も増えているそうです。私たちも給食で大内さんの野菜をいただきますが、本当にぜひ一度食べてみてほしいです。

反対に大変なことは、規格外の作物

が多くのできてしまった時で、そのようなことが起つた場合、引き取ってくれるところを探したり、加工品として販売したりして、作物となるべく無駄にしないように対応しているそうです。

一番忙しい季節は、「二年中」。作物を育てるのは簡単なことではなく、時間もかかります。「作物が育たないから、途中でやめることはできない」と、大変

さが伝わってきました。

日置の魅力について聞くと、やはり、「自然が豊かなところ」だそうです。自然が豊かなおかげで、作物に必要な水

を川からひくことができます。それが日々ばかりの頃は収入が安定せず苦労もあつたそうですが、「二年中仕事をして、やつと安定してきた」と話されていました。大変な農業で食べていけるようになつたことや、生活ができるようになつたことが、農業での成功だそうです。

やりがいを感じる瞬間は、自分の育てた作物を食べてもらい、「美味しいかった」の一言が聞けた時。大内さんの作物を何度も購入してくださるリピーターの方も増えているそうです。私たちも給食で大内さんの野菜をいただきますが、本当においしく、特に「ジャンボピーマン」が私たちの間では話題になります。普通のピーマン嫌いの人にもぜひ一度食べてみてほしいです。

反対に大変なことは、規格外の作物

が多くのできてしまつた時で、そのようなことが起つた場合、引き取ってくれるところを探したり、加工品として販売したりして、作物となるべく無駄にしないように対応しているそうです。

一番忙しい季節は、「二年中」。作物を育てるのは簡単なことではなく、時間もかかります。「作物が育たないから、途中でやめることはできない」と、大変

さが伝わってきました。

日置の魅力について聞くと、やはり、「自然が豊かなところ」だそうです。自然が豊かなおかげで、作物に必要な水

を川からひくことができます。それが日々ばかりの頃は収入が安定せず苦労もあつたそうですが、「二年中仕事をして、やつと安定してきた」と話されていました。大変な農業で食べていけるようになつたことや、生活ができるようになつたことが、農業での成功だそうです。

やりがいを感じる瞬間は、自分の育てた作物を食べてもらい、「美味しいかった」の一言が聞けた時。大内さんの作物を何度も購入してくださるリピーターの方も増えているそうです。私たちも給食で大内さんの野菜をいただきますが、本当においしく、特に「ジャンボピーマン」が私たちの間では話題になります。普通のピーマン嫌いの人にもぜひ一度食べてみてほしいです。

反対に大変なことは、規格外の作物

が多くのできてしまつた時で、そのようなことが起つた場合、引き取ってくれるところを探したり、加工品として販売したりして、作物となるべく無駄にしないように対応しているそうです。

一番忙しい季節は、「二年中」。作物を育てるのは簡単なことではなく、時間もかかります。「作物が育たないから、途中でやめることはできない」と、大変

さが伝わってきました。

日置の魅力について聞くと、やはり、「自然が豊かなところ」だそうです。自然が豊かなおかげで、作物に必要な水

を川からひくことができます。それが日々ばかりの頃は収入が安定せず苦労もあつたそうですが、「二年中仕事をして、やつと安定してきた」と話されていました。大変な農業で食べていけるようになつたことや、生活ができるようになつたことが、農業での成功だそうです。

やりがいを感じる瞬間は、自分の育てた作物を食べてもらい、「美味しいかった」の一言が聞けた時。大内さんの作物を何度も購入してくださるリピーターの方も増えているそうです。私たちも給食で大内さんの野菜をいただきますが、本当においしく、特に「ジャンボピーマン」が私たちの間では話題になります。普通のピーマン嫌いの人にもぜひ一度食べてみてほしいです。

反対に大変なことは、規格外の作物

が増え、さらにファンが増えるといいなど記事を書きながら思っています。

農業を始めたばかりの頃の夢は「フレーリーを買うこと（笑）」だそうです。フレーリーを購入できたのかは聞けていませんが、夢を持つことの素敵さを感じました。そんな大内さんに中学生に向けてのメッセージをお願いしたところ、「一人でも多くの人に、農業に興味を持つてほしいです。また、何か夢になれることがあります。改めて気づきました。大内さん

の想いを聞いた私たちは、期待に応えられるように、ひきよせや海の森プロジェクトで日置を活性化させ、よりよい

未来を創るために頑張っていきます。

農業の大変さ、また、農業への熱い想

いを語つてくださった大内さんの愛情

たっぷりの野菜や米、花は、安居地区の

作業場、日置の道の駅「にこにこ市」、田

辺市の「よつてつ」「紀菜館」等で購入

することができます。この記事を読んで

大内さんの野菜を購入してくれる人が



南紀州交流公社 左:佐本真志さん 右:岩本淳さん

南紀州交流公社

南紀州交流公社は、紀伊半島の南部、和歌山県白浜町日置川地域を中心に南紀州の自然環境と農林漁業の生業を活かした「ほんまもん体験」の受入れを行っています。その中に民泊があり、

- 生活体験を通して、人々との交流を大切にする。共同生活によりお互いに思いやる心、助け合う心を育む。
- 農山漁村の生活を通して、自然との共生、第一次産業の重要性を見直し、理解を深める。
- 野菜や食材を調達し食事を一緒に作ることから、食の大切さを学び、命の教育・食育につながる。

このことを目的に民泊をしています。



- 基本的な礼儀が出来ること(挨拶、返事、意志の伝達、迷惑をかけない等)。
- お客様でなく、自分からすすんで活動する意識を持つ。
- 他人の家に泊まる以上、常識ある行動をする。

これが民泊の心得です。受入軒数が100軒で1日に240名を受入れることができます。連泊及び家業体験も可能です。

民泊の他にも熊野古道・林業体験・紀州南高梅体験など様々な体験を行っています。

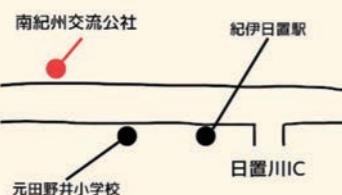
「若い人と作業していると若さがもらえ  
る、楽しいから体力があればいくらでも  
したい。」とお二人の言葉を聞き、民泊の  
魅力あふれる体験に興味がわきました。  
体験民泊をするうえでお二人は、事  
故なく帰つてもらうこと、気持ちよく過  
ごしてもらうことを大切にしているそう  
で、学生さんが泊まる時は他人の子供を  
預かるので特に事故が起こらないよう  
に、また、喧嘩をしないようにと気を付  
けているそうです。



遺言だと思つて聞いてくれ。」と中学生、高校生の年代に合わせて話をするとこ  
ろだそうです。時には耳の痛いことを言  
うことも：「だそうで、これもまた民泊の  
良さだと感じました。

これから取り入れていきたいことを聞  
いてみると、「前までは自分の知つている  
範囲で日置のことを話していたから、今ま  
後は地元の勉強をたくさんして今まで  
より様々な話をしたい。」と答えてくだ  
さり、勉強熱心なところを私たちも見  
習わないといけないなと思いました。

正道さんが感じる日置の魅力を聞い  
てみました。「それぞれの時代で魅力が  
ある。自然豊かで人間が生きていくうえ  
で必要な最低限の条件が整っている。農  
作業ができる。充実した環境がある。静  
かで空気がよく、水がきれい。釣りがで  
きる。」と多くの魅力を教えてください  
ました。魅力はたくさんあるけれど、反  
対に不便なこともあるそうです。「健康  
でいられる時はいいけれど、病気になつた  
とき、家の近くに買い物ができるお店が  
なく移動が大変なので、電車やバスを使  
えるように移動手段を解決してほし  
い。」とのことでした。今の私たちが解決



するには難しい問題ではありますが、町に住む人々の声を届けられるよう、将来を担う私たちは頑張っていきたいなと思います。

私たち中学生に期待していることを尋ねると、「視野の広い、自分で物事を考えられる人間になってほしい。基礎的な判断力を養つてほしい。これが私の遺言です。」と正道さんならではの口調で、語つてくださいました。

私たちは今回の取材を通して、とてもお客様想いで、たくさんのことが体験できる素晴らしい民泊だなと思いました。

皆さん、自然豊かな日置にある、昔ながらの生活を体験でき、たくさんのことが学べ、素敵な人と出会い、繋がりが生まれる民泊を体験してみませんか？



[南紀州交流公社]  
白浜町安居306-1  
TEL 0739-53-0055  
FAX 0739-34-5010  
<https://www.minamikishu.com>



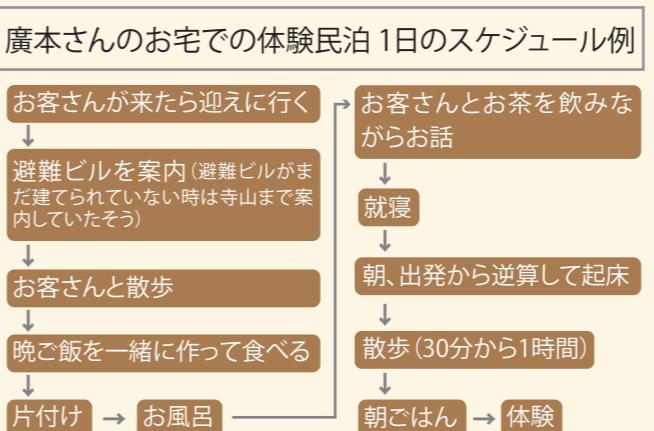
廣本正道さん

廣本鮎子さん

日置中学校から歩いて約十分、昔ながらの日置の町並の中にある建物。ここで「夫婦二人がされている体験民泊が今回の取材先。

あたたかみ感じ  
る  
第二のふるさとに

す。子育てがひと段落し、部屋が一つ空いたことと、日置の過疎化が心配していたように進み、何とかしないといけないと思つたからだそうです。そんな思いから



鮎子さんが一番こだわっておられるのは食事。学生さんが来る時は、「戦後の時代を体験させてください。」と先生から言われているそうで、子供が喜ぶハンバーグやスパゲッティなどの料理は出しません。使う食材も、家庭菜園の野菜、日置のお店の野菜、日置で獲れた魚にこだわり、日置の食材がない場合は和歌山県産のものを使うそうです。お肉は使わずに昭和時代の生活を体験してもらい、地元の食材を使って泊まりに来た子供たちと一緒にご飯を作ります。一緒に作り、一緒に食べ、一緒に洗い物と片付けをする。その中での学びはとても多いと思います。また、鮎子さんは子供達と必ず漬物を一緒に作ることもこだわりの一つだそうです。



鮎子さんのペイントが  
家の中にたくさんあります

A portrait of an elderly woman with white hair and glasses, wearing a white t-shirt with a floral design. She is sitting on a dark couch. The background shows a room with a large exercise ball and a shelf with various items.

## テニスで広がる地域との繋がり 日置が誇るテニスの聖地

紀勢道の日置川ICを降りて、国道四二号を椿方面に向かうと、ひときわ大きい施設が現れます。白浜町テニスコートです。ここは老若男女問わずたくさんの方が利用されています。

このテニスコートは、一九七一年の黒潮国体にあわせて開設されました。当時の日置川町が「鮎とテニスの町」と言われるほどテニスが盛んであったことや、その時の中学校男子テニス部が県内でも特に強かったため、日置にテニスコートが作られたというお話もあるそうです。

このテニスコートは、二〇一五年の紀の国わかやま国体をきっかけに一度コートが貼り替えられ、面数が拡張されました。もともと十二面だったところに、若者広場、野球場だった場所を利用しました。現在のテニスコートはコートだけで約十四万六百平米もあり、駐車場だけ省内最大級の二十面に拡張されました。現在のテニスコートはコートだけで



左:古川泰造さん 右:山川勲さん



でも一千七百平米になります。これは甲子園球場のグラウンドよりも広くて、駐車場等のスペースを利用して、試合前の準備運動をする人も多く、効果的に使われています。

白浜町テニスコートは、砂にもこだわっていて、ガーネットサンドという種類の砂を使用しています。この砂は膝や足腰への負担が少なく、クッション性があります。そのおかげで高齢の利用者の方からも評判が高いそうです。また、他の砂に比べて少し重く、風で飛ばされにくい特性も持ち合わせています。

どのくらいの人が利用しているのかを管理人に尋ねると、年間約千三百人ほどの人が訪れていて、多い年には約二万人がこのコートでテニスを楽しんでいました。五月にはゴールデンウィークを利用して多くの方々がこのテニスコートを訪れて、八月には夏休みもあり高校生や大学生が合宿や練習などに利用しています。

また、コロナ前に行われたイベントでは、アイドルの方がこのコートに二度訪

備されており、ここで毎日練習ができる

なんて贅沢だなと思っています。いつも気持ちはよく利用させていただくことができ、管理人さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

このように、管理人さんたちが細かいところまで一生懸命整備してくれている白浜町テニスコート、皆さんも是非お越しください。

私たち日置中学校テニス部は、普段からこのテニスコートを利用させていたいため、放課後もこのコートで練習ができます。いつ行つても綺麗に整備があるときには帰ってきてほしい」ともおっしゃっていました。

私たち日置中学校テニス部は、普段からこのテニスコートを利用させていたいため、放課後もこのコートで練習ができます。いつ行つても綺麗に整備があるときには帰ってきてほしい」とおっしゃっていました。

「今の子供が成長すると、日置の外で仕事をするために引越しをする人が多く、帰ってくる人の方が少ないから減り続けるんだと思う。」とおっしゃっていました。しかし、自分たちでどうにかするのには難しいから余計に寂しく感じるそ

うです。

過疎の解決のためには、「もっと日置の魅力を広げることができれば自分たちでも解決できるかもしれない。」と教えてくれました。お一人が思う日置の魅力は川や海、山などの自然が豊かなところだそうです。人は少ないので、みんな人柄がよく住みよい町だと話



[白浜町テニスコート]  
白浜町日置2039-119  
TEL 0739-52-2247  
FAX 0739-52-2186



れ、テニスの腕前を披露してくれていたたちはもちろん、他都市、さらには和歌山県外から様々な人たちがこの白浜町テニスコートを訪れて、テニスを楽しんでいます。今まで特に気にしたことのなかつたこのテニスコートが、実は様々な人が集う素敵な場所だということを、取材をすることで再発見することができました。

このように、日置の町に住んでいる人々は、テニスの腕前を披露してくれていたたちはもちろん、他都市、さらには和歌山県外から様々な人たちがこの白浜町テニスコートを訪れて、テニスを楽しんでいます。今まで特に気にしたことのなかつたこのテニスコートが、実は様々な人が集う素敵な場所だということを、取材をすることで再発見することができました。



# 愛され続けて七十五年

三代続く老舗の味

@日置

道の駅海来館から北向きに進み、日置の町を抜け  
て山に向かう国道沿いにお店があります。  
その名は「たつのや」。

今年で創業七十五年。名前の由来は社長の祖父の  
主に民宿・食事処として営業しています。

お名前から取ってきたそうです。



お昼時になると駐車場はいつもお客様の車でいっぱいです。特にお昼の十二時～二時台、夏休みやGWなどはお客様が多いです。

大きな座敷もあるので大勢で楽しめ  
るようになっていて、家族・親戚がお祝い  
ごとや法事、帰省などで集まる時や、会  
社、地域の人たちの宴会、小中学校の同  
窓会など、地元の人の暮らしの中の様々  
な場面で利用されています。また壁には  
釣られた魚の黒魚拓が飾られており、  
釣り好きにはたまらない場所となっています。

私たち日置中学生もよくたつのやを利用させていただいています。従業員さんはとてもフレンドリーで、気兼ねなく通うことができます。

メニューは八十種類と幅広く、毎日来て飽きない品揃えとなっています。たつのやの自慢は新鮮な海鮮を使った料理。広々とした店内で寛ぎながら旬の海鮮料理を味わうことができます。夏



左:門前洋八さん 右:平阪真樹さん

調理担当をしている門前洋八（もんぜんひろや）さんと、店長でありホール担当をしている平阪真樹（ひらさかまき）さんにお話をうかがつてみたところ、お二人はすごく楽しそうに仕事をされているのが伝わってきました。

門前さんは宝塚で働いていた時に、現三代目たつのや社長である勘代さんに声をかけてもらい、今の仕事に就かれたそうです。

平阪さんも同じく、社長さんに声をかけてもらい、たつのやで働かれています。たつのやで働いてやりがいを感じる時を尋ねると、門前さんは、「忙しい時」、平阪さんは「お客様に嬉しいお言葉をかけていただいた時」、とおっしゃっていました。

お一人にとつてのたつのやは何かと聞いてみると、お二人とも「日置には山や川、海などの自然が豊富だからもっと魅力を発信していきたい。」「日置の人口を増やしていきたい。」と答えてくださいました。また私たち中学生に期待していることは、「いつか地元に帰ってきてほしい。」「今しかできないことを楽しんでほしい。」とのことでした。

たつのやの民宿は、主に観光客や近くにあるテニスコートでの大会で合宿に参加する学生さん、釣り人などに利用されています。

お部屋は全十三室あり、収容人数は五六十人。お部屋の番号は「イシダイ」や「イサキ」など地元の魚の名前になっているのも特徴となっています。

お風呂は天然温泉で、たつのやの近くにある海底源泉を使用した「日置川渚の湯」を運んできているそうです。泉質は強アルカリ泉で肌がツルツルになるのが

はうなぎを提供するなど四季折々でメニューが変化するのも魅力的です。また料理は全体的にボリュームがあり、よく食べるお客様でも満足できるようになっています。

また、海鮮料理も人気ですが一番注文されているのは幅広い世代から愛されている唐揚げ。下味を付けていないのがたつのやの唐揚げの特徴。パリッとした衣と、柔らかい鶏ももは、塩味がよく効いています。

ちなみに、取材を担当した私のおすすめはマグロの一色丼です。

料理で特にこだわっているのはダシだけです。日置の南隣にある町、周参見前に「白浜温泉うなぎまるかん」という海鮮料理店を経営されています。うなぎ料理店を経営されています。

うなぎを提供するなど四季折々でメニューが変化するのも魅力的です。また料理は全体的にボリュームがあり、よく食べるお客様でも満足できるようになります。

海鮮料理はやはり人気。その中でもお刺身定食は番人気だそうですが、単品の握りや巻き寿司も人気。また日置寿司もおすすめです。

また、海鮮料理も人気ですが一番注文されているのは幅広い世代から愛されています。

お部屋の裏庭にはバーベキュー場が設けられており、合宿に来ている学生さんが、たつのやに宿泊された際などによく利用されているそうです。



特徴的。美肌の湯とも言われています。

また、「コロナ禍でお店にお客様が来ない時、宿泊のキャンセルが相次ぐ中、新たに始めたのがお弁当販売でした。今まで仕出し弁当を出張したりもしているそうです。

お二人は、「今後宿泊やご飯を食べに何度も通っててくれる方が増えてほしい。」「みんなに愛される場所になりたい。」とリピーターが増えることを望まれていました。

たつのやには姉妹店もあります。田辺市新庄町と和歌山市駅直結のキーノ和歌山に「海鮮れすとらん勘八屋（かんぱちや）」という海鮮料理店、紀伊田辺駅前に「白浜温泉うなぎまるかん」といううなぎ料理店を経営されています。そして、南紀の台、産直市場よつてつての本店にお越しください。



R31

R32

R33

R34

R35

R36

R37

R38

R39

R40

R41

R42

R43

R44

R45

R46

R47

R48

R49

R50

R51

R52

R53

R54

R55

R56

R57

R58

R59

R60

R61

R62

R63

R64

R65

R66

R67

R68

R69

R70

R71

R72

R73

R74

R75

R76

R77

R78

R79

R80

R81

R82

R83

R84

R85

R86

R87

R88

R89

R90

R91

R92

R93

R94

R95

R96

R97

R98

R99

R100

R101

R102

R103

R104

R105

R106

R107

R108

R109

R110

R111

R112

R113

R114

R115

R116

R117

R118

R119

R120

R121

R122

R123

R124

R125

R126

R127

R128

R129

R130

R131

R132

R133

R134

R135

R136

R137

R138

R139

R140

R141

R142

R143

R144

R145

R146

R147

R148

R149

R150

R151

R152

R153

R154

R155

R156

R157

R158

R159



# ひきよせのあゆみ



START!

見た目はプリン  
中身は石鹼!!

その名も  
スーパー激落ちプリン&ピクリン  
日置中文化発表会で

販売決定!!

日置中生徒が考案し、製造しました。  
100個限定です。

オリジナル石鹼はいかがですか?  
台所用、洗濯用の石鹼です。

11月20日 日置中 体育館にて販売

2016年 石鹼

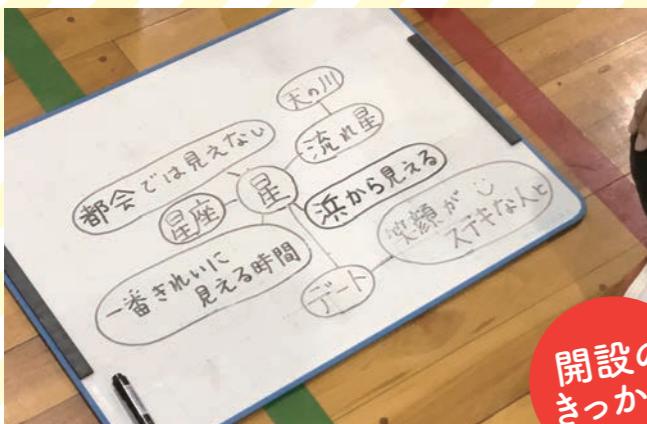


2017年 門松



2018年 しめ縄

2019年 Instagram開設



開設のきっかけ

日置をたくさん的人に知ってもらうことが必要。インスタグラムを開設すればもっとたくさんの人に知ってもらえるのではないか

どんな写真を投稿すれば  
日置の魅力が伝わるのか…

自分たちがまず日置を知らなければ!

先輩方は、日置の町を活性化したいという思いから活動を開始したと聞いています。2016年には石鹼、2017年には門松、2018年にはしめ縄を作り文化発表会で販売しました。しかし、これでは文化発表会当日しか町は盛り上がってない、また、毎年何かを作る予算もない、、、という問題があり、活動を大きく変更しよう!と翌年より新たな取組がスタートします!

2020年 地元企業、施設を訪問して  
地域について知る



企業訪問

日置地区だけでなく、白浜町、  
さらに近隣の市町村の

- ・経済、産業
- ・観光
- ・歴史、文化について学びました。

IT企業、スーパー、商工会、サイクリング、  
ジオパーク、民泊、キャンプ場、空港、熊野古道、  
安居暗渠、役場地域防災課を訪れ、  
話を聞かせていただきました!

2021年 フリーマガジン作成



取材  
制作

企業訪問で知った町の良さをもっと  
たくさんの人に知ってもらいたい!

▶ フリーマガジンを作ろう

私たちの紹介したい日置のヒト、モノ、コトを  
ピックアップし、取材の依頼、取材、  
写真の撮影、記事の作成をしました。

2023年 日置フェア、海の森プロジェクト、  
フリーマガジン英語版作成、昼市夜市



活動の  
拡大

フリーマガジンを見てくださった方々  
からのたくさんの連絡!

▶ 日置の魅力をたくさんの人々に  
伝える活動の幅が広がりました。



英語版「ひきよせ2号」→



2022年 フリーマガジン2号作成



第1号のフリーマガジンひきよせ作成に続いて  
フリーマガジンひきよせ第2号を作成しました!  
第1号の反省を活かし、地図の作成やオススメ  
スポットの紹介、新たに動画を使用した取材先  
の紹介等に取り組みました。

また、この年から一致団結して活動を行うために  
おそろいのオリジナルTシャツもできました♡

2024年 フリーマガジン3号作成、  
海の森プロジェクト



活動の  
継続

昼市夜市⇒悪天候のため中止(：\_：)  
海の森プロジェクト

⇒研究の継続、次のステップへ!

フリーマガジン3号作成のスタート!

to be continued...

# 生徒の感想「ひきよせプロジェクト」を通して

一人ひとり、全員が主役!私たちの活動。もちろんうまくいかないことも、難しいこともあります。

その中で試行錯誤し、奮闘しながら日々成長している私たちの「今」を少し覗いてみてください。

私はひきよせをしていてよかったです。人前で話すことが、得意ではなかったけど、今は少し得意にならなと思います。得意になったおかげで人前で話す時あまり緊張せずに話すことができるようになりました。様々な作業をする時には、初めはうまくいかないこともたくさんありました。周りの人たちのアドバイスのおかげでできることが増え、自信もついてきました。(2年生)

3年間総合を通して、様々な体験をしました。小学校までは全然違っていて今までにない感じでした。これまで地域の人たちに関わるものと言えばクリーニングリーンや祭り程度だったので、1年生の頃はこの活動は少し緊張しました。2年生になるとアマモを育てる事になり、最初はよく分かりませんでした。当初は乗り気ではなかったけど、時間が経つにつれ、とてもやってよかったです。班で意見を交換したり、実験を何回も繰り返す中で、コミュニケーション能力がとても高くなっています。今までの経験をこれから自分の成長へと繋げたいです。(3年生)



SCAN HERE

Instagram QR



日置中学校のInstagramです!  
フォローよろしくお願いします!

活動紹介動画 QR



ひきよせプロジェクトの活動の  
様子を動画にしました!  
ぜひ、ご覧ください!

アンケート QR



フリーマガジンを手に取ってく  
ださった皆様からの感想をお  
待ちしています!



私がこの1年間の総合で1番印象に残っていることはアマモの活動です。私は総合の時間だけでなく、アマモ先行調査隊に入り、たくさんの時間、アマモに関わってきました。この中学校の生徒だからこそ経験できることなので、1年間で1番印象に残っています。残りの2年間も研究を続け、日置の海にアマモを投苗し、アマモがたくさんある海を作り、地球の環境についても考えていきたいです。(1年生)

日置中学校での総合の授業は、ひきよせ3号の取材やアマモについてなど、初めてのことばかりですごく不安も多かったです。でも、思ったよりも1年が早く過ぎていたし、総合の時間はいつも最高に楽しく過ごせました。特に取材は、緊張しましたが楽しかったです。残りの2年間も総合を頑張って、卒業の頃には先輩たちのように様々なことができるようになります。(1年生)

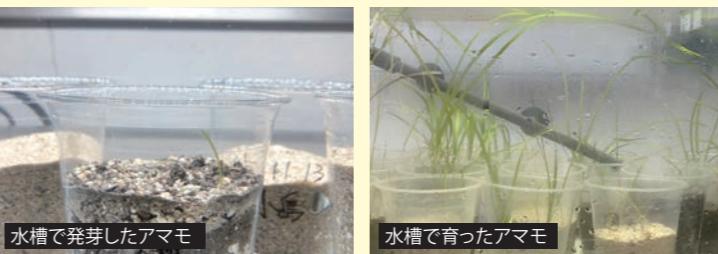
私はこの2年間、総合での活動を通して、1年生の時より「大変だな」と感じることが増えました。1年生のときは言われたことをするだけだったけど、自分で考えながら動いたり、下級生に教えながら動いたりするようになったからだと思います。指示を待つだけでなく、自分で考え行動する力や、よりよい方法を相談して見つけるという力がつきました。残りの1年は何ができるのかとても楽しみです。(2年生)

今後の参考にさせていただきます。  
ご協力お願いいたします。

# 海の森プロジェクト

## アマモって何?

海草の一種であり日本各地に分布しています。アマモは小魚や甲殻類などの棲みかになるだけでなく、海を豊かにし、また光合成により二酸化炭素を吸収して酸素を作るなどの働きがあります。これらのことから「海のゆりかご」と呼ばれています。そんな生き物にとって欠かせないアマモですが、海水温の上昇の影響や高度経済成長期の水質悪化、沿岸域の開発などによって、アマモの生息地であるアマモ場が大幅に減少してしまいました。



水槽で発芽したアマモ



水槽で育ったアマモ



実験の検討



実験準備中

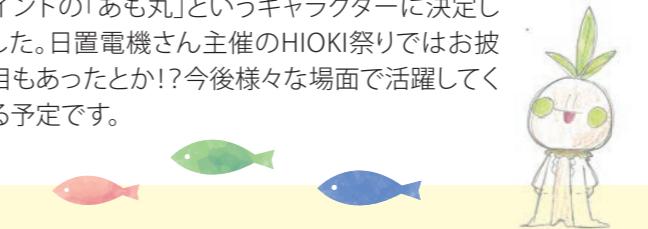
## 日置(ひおき)電機株式会社

長野県上田市にある電気計測器を作っている会社です。日置(ひき)に旅行に来てフリーマガジンを見つけてくださった方が日置電機岡澤社長と繋がりがあり、連絡してくださったことをきっかけに交流がスタートしました。「日置」と書いて「ひき」と読む日置中学校と「ひおき」と読む日置電機さん。「日置」が縁を結んでくれました。このプロジェクトを進めるにあたり機材の提供や実験のアドバイス等、私たちにたくさんの支援をしてくださっています。普段はオンラインでの授業ですが、年に数回、日置中学校へも来てくれています。



## あも丸

海の森プロジェクトを進めるにあたって、日置中学校生徒がアマモのキャラクター総選挙を行いました。日置中学校、日置電機の海の森プロジェクトメンバー、楠部教授の投票により、黄緑色と茶色のアマモカラーを基調とした大きめの白いキャラクター「あも丸」というキャラクターが決定しました。日置電機さん主催のHIOKI祭りではお披露目もあったとか!?今後様々な場面で活躍してくれる予定です。



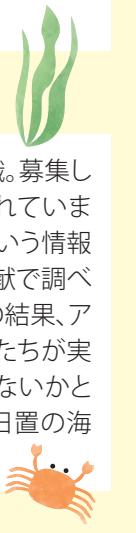
## 和歌山工業高等専門学校

和歌山工業高等専門学校さんは和歌山県御坊市にある国立高専です。そこにいる楠部真崇(くすべまさたか)教授は海洋生態系のプロフェッショナルでアマモ場の再生に向けて様々な研究を進めています。私たちの研究にも大きな力を貸してくれています。プロジェクトの始まりの際には、全校生徒、保護者、地域の方々、日置電機株式会社の皆様を対象にガイダンスを行ってくださいました。日々の授業の際にも学校まで足を運んでください、実験のアドバイスをくださいます。授業や日置の海を調査する際には学生さんも参加してくださることもあります。



## アマモ先行調査隊

全校生徒の代表として、アマモ研究を進めている組織。募集したところ4名が手を挙げ、積極的に活動を進めてくれています。市江(いちえ)漁港にアマモのようなものがあるという情報から、夏休みには市江の歴史や海の環境について文献で調べたり、実際に海に潜り調査を進めてくれました。調査の結果、アマモの仲間であるコアマモがたくさん生えており、私たちが実験しているアマモも育つのに適した海であるのではないかというデータが集まり、今後は水槽で育てたアマモを日置の海へ投苗する準備を進めています。



引き続き「ひきよせプロジェクト」応援よろしくお願ひいたします!